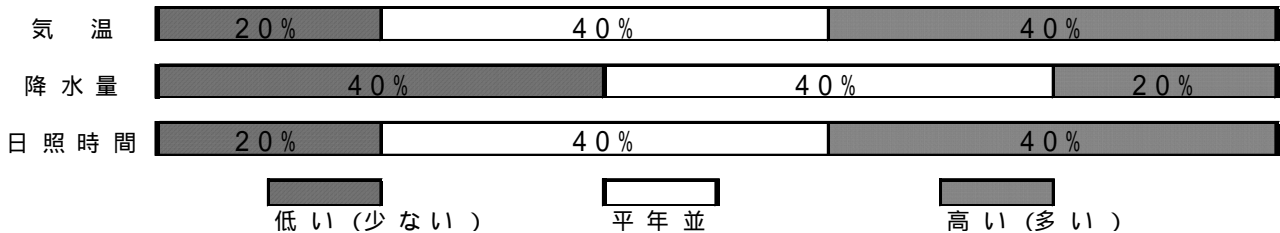


平成23年度 病害虫発生予察情報 発生予報第3号（5月後半～6月前半）

平成23年5月20日
島 根 県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	やや多い
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	少ない
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	やや多い
		黒斑病	やや少ない
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	やや少ない
野菜	カキ	ハダニ類	やや多い
	タマネギ	カキクダアザミウマ	平年並
		ポトリ糸属菌による葉枯れ	平年並
		べと病 腐敗病・軟腐病	やや少ない 平年並

中国地方1か月予報（5月14日～6月13日・広島地方气象台5月13日発表）
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

5月17日現在、巡回調査地点において発生は確認されていない（平年発生圃場率3.9%）。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

巡回調査地点における発生量は、発生圃場率10.2%（平年3.1%）、発病穂率0.14%（平年0.07%）と平年に比べてやや多い。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

5月17日現在、巡回調査地点において発生は確認されていない(平年発生圃場率1.3%)。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。

4月のすくい取り調査では、捕獲数は0.42頭/20回振(去年同期0.15頭)、

発生圃場率は12.9%(去年同期10.1%)で発生量は昨年と同程度である。

採集した越冬世代成幼虫の保毒虫率は0%で昨年(7.0%)に比べて低い。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 少ない

予報の根拠

予察灯への初飛来は、5月第2半旬で平年並みである。

前年の第2世代成虫発生量は平年比2.3%で、越冬量は少ないと考えられる。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミスゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠

予察灯への初飛来は、5月第2半旬で平年並みである。

前年の新成虫の誘殺数は平年に比べてやや多く(平年比163%)、越冬成虫量は平年に比べてやや多いと考えられる。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

5月8日、県予察圃場で初発(平年:4月27日)を確認した。

5月9日の巡回調査(安来地区)では、発生量は平年と比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

5月9日、巡回調査(安来地区)で初発(平年:5月1日)を確認した。

5月9日の巡回調査(安来地区)では、葉での発病は確認していないが、10圃

場中3圃場で幼果での発生を確認している。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

初飛来日は4月11日で平年並みである。

前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並み、越冬量は平年並みと考えられる。

フェロモントラップ(安来市)でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 遅い

発生量 やや少ない

予報の根拠

初飛来日は5月6日でやや遅い。

フェロモントラップ(出雲市)でのハマキムシ類の誘殺数はやや少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。

5月上旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生花そう率は12.3%(平年2.8%)とやや多い。

向こう1か月の気象は本種の発生に特に抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

予報の根拠

4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。

5月15日の巡回調査では巻葉被害が認められた。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率36.7%(平年36.2%)、発病株率0.9%(平年4.4%)とほぼ平年並みである。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ペと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率23.3%(平年38.3%)、発病株率1.4%(平年6.8%)と平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

巡回調査地点における5月中旬の発生量は、発生圃場率23.3%（平年17.7%）、
発病株率0.2%（平年0.4%）とほぼ平年並みである。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp